

## 平成 28 年度 第 2 回秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 29 年 1 月 25 日 (水) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 55 分まで
会 場	秋葉区役所6階 603 会議室
出席者	秋葉区自治協議会委員 14 名 教育委員:佐藤教育委員、沢野教育委員 事務局:教育総務課企画室長、教職員課課長補佐、学校支援課課長補佐、 新津地区公民館長、新津図書館長、 秋葉区教育支援センター所長・指導主事・主任 秋葉区役所:区長、副区長、地域課長 傍聴者: 0 名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(沢野教育委員、佐藤教育委員) 3 出席者紹介 4 平成 28 年度全国学力・学習状況調査 新潟市の結果について(事務局説明)
自治協委員	<p>昨年のミーティングでも話をしたが、学力テストの結果について、昨年同様、小学校はこんなにいいのに、なぜ中学校に行くと極端に下がるのか明快な回答をもらっていなかったように思うが。今ほど、中学校では相当頑張った、少しずつ伸びが見られるという話だったが、本当にそうだろうか。</p> <p>もう一つ、県、新潟市とも、中学校3年生の結果は全国に比べプラスなのに、秋葉区だけマイナスになっているが、その原因は何か。</p> <p>また、学習状況調査で家庭学習の話があったが、中学校3年生で1時間以上家庭学習しているのは昨年と変わりはないが、30分しかしていない子どもが相当いるということ。家庭学習が足りていないことがはっきりわかるのだが。</p> <p>昨年のミーティングでは、たしか家庭学習と読書を充実させたい、中学校の学校教育をしっかりとやっていけば伸びる、心配ないという話だったが、これで改善されていると言えるのか。この結果をどのように捉え、分析し、対策を図ろうとしているのか、聞きたい。</p>
秋葉区教育 支援センター 所長	<p>これについては、この後、本日のテーマの中で、秋葉区の子どもたちの家庭学習時間についても、意見交換させていただくことになっているので、その時にお願 いしたい。</p>
司会	<p>5 意見交換 テーマ「秋葉区の教育について」 司会 秋葉区教育支援センター所長 秋葉区自治協議会第3部会では、「秋葉区に生まれ、育ち、本当に良かったと子どもたちが実感でき、ふるさと秋葉区に愛着と誇りをもてる教育」が大事であり、また、ミーティングについては継続性をもたせ、ミーティングで出された意見などの施策へのフィードバックも大切と考えている。 今回は、秋葉区の教育の現状を探るため、秋葉区の教育の「強み」や「少し足りないもの」を子どもたちの生活に関する調査結果の中から示し、それをもとに自治協</p>

委員と教育委員との意見交換の場になればと考えている。

については、本日の配付資料が今回のテーマやこれまでの区教育ミーティングでいただいたご意見に関連したものとなっているので若干説明したい。

【説明資料】

- ・秋葉区の教育について ～小・中学校アンケート～
- ・秋葉区の地域と学校パートナーシップ事業
- ・平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果
- ・子ども食堂について
- ・生活習慣病予防対策事業
- ・平成29年度 秋葉区の宝 子ども発見・体感・体験サポート事業
- ・秋葉区自治協議会提案事業「秋葉公園プレーパーク協働事業」

秋葉区教育  
支援センター  
指導主事

秋葉区の児童生徒の意識や日常生活を知るデータとして、「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査の結果から説明。

秋葉区の小・中学生に見られる特徴の1点目として、秋葉区には「地域に関心を持ち、地域行事やボランティアに参加する児童生徒が比較的多くいる」こと。

その一方で、家庭学習の時間が多くない、学習する習慣が身につけていないという結果も出ているので、この2点について意見交換をしてはどうか提案したい。

司会

それでは、はじめに、秋葉区の子どもたちの意識での良い点、「地域に関心を持ち、地域行事やボランティアに参加する児童生徒が多い」ことについて、ご意見をいただきたい。

自治協委員

秋葉区の子どもたちが地域の行事などに常に関心をもって関わっていることは、私も実感している。

例えば、町内の運動会に進んで参加し、運営を手伝ってくれたり、早朝のクリーン作戦にも中学生が多数参加していることをすばらしいことと感じている。秋葉区の地域社会が子どもに関心をもっており、また地域教育コーディネーターの熱心な活動の表れであり、このグラフのとおりだと思う。

自治協委員

今のグラフと先ほどの学習状況調査の結果を対比すると、おそらく小さい頃から地域に出て、いろいろな方と関わりながら活動することが中学生の人間形成につながっているように感じている。

中学校の調査結果で、学校のルールを守れるとか人の役に立ちたいなどの項目とともに、地域や社会で起こる問題などに高い関心が示されていることも、こういった意識が小さい頃からすり込まれ、地域活動にボランティアとして関わるなど、大人になっていく過程のよい表れになっているのではないかと思う。

自治協委員

コミュニティ協議会としては、どうしても高齢者の問題ばかりに目が向いていたと反省している。地域の子どもたちに関係する取組みとしては、運動会や雪まつりくらい。ただ、敬老会で子どもたちとの交流は少しずつ深まっているが、もっと考えていかなければ思った。

放課後の子どもたちの行動は把握できていないが、家庭学習と関係があるのかもしれないが、学童(保育)に行く子どもも多いと思うので、例えば学習支援などで

自治協委員	<p>ることはないかと思っている。最近、コミュニティセンターに来て、黙々と勉強している中高生もいるので、何か取り組めたらと考えている。</p>
司会	<p>地域に関心を持って行事などに参加するだけではなく、さらに秋葉区を自分たちで何とかしなければという意識を持っていて、次のステップに進んでいるような気さえしている。</p> <p>私も子どもたちとのいろいろな関わりの中で、子どもたちの方から提案があったりして、ただ参加しているだけではないということから、もうすでに他の地域より先に進んでいると感じている。</p>
教育委員	<p>地域の伝統行事などの継承の取組みとして、例えば、地元地域と子どもたちがいっしょになって、学校田でとれた稲わらを活用し、毎年賽の神に取り組んでいる地域もある。行事の準備段階から子どもたちも運営に関わり、地域の伝統をみんなで守り育てていこうとしている。こういった取組みが秋葉区では多く見られる。</p>
司会	<p>昨年行った新津第二小学校のウェルカム参観日は、新潟薬科大学と連携した子どもたちの新津川についての研究発表だった。</p> <p>日ごろから地域の皆さん、先生方から支えられ生き物の命の大切さや環境のすばらしさなどを学んでおり、そういった学習成果を一生懸命に発表する子どもたちの姿が印象的でした。</p>
教育委員会事務局	<p>次に、秋葉区の教育について考えた場合に、秋葉区の子どもたちの意識の特徴で、少し不足していると思われる点として、子どもたちの家庭学習の時間が少し足りないのではないかということデータを説明したが、これについてまたご意見をいただきたい。</p>
自治協委員	<p>家庭学習については、秋葉区に限ったことではなく、県も本市全体も家庭学習の部分が少し低いという特徴があり、学校授業と関連した学習を家でもできるように、本市でも今年度になって学校とともに取組みを始めたところである。</p> <p>先ほど委員から話のあった、中学校3年生の学力テスト結果の落ち込みについては、確かに昨年度同様の状況にあり、数字に関しては今後も努力して伸ばすように努めていきたいと考えている。</p> <p>中学校では今年度からパイロット事業を始めて、学校支援課が複数回学校に入り、子どもたちが学習に向かうような授業を作っていくことで、意欲も学力も伸ばすのではないかと取組み始めている。</p> <p>また、家庭学習の時間が30分くらいと短いのは秋葉区だけの特徴とは言えないが、中学校では部活動や放課後活動が増えるため、小学校に比べ家庭にいる時間が減ってしまい、どうしても勉強時間も減る状況にある。</p> <p>その状況の中で格差が生まれ、やる子はやる、やらない子はやらないと。まずはやらない子の30分以内の勉強時間を少しずつでも伸ばしていくことで家庭学習の癖をつけ、それが成果に結びつくように学校でも努力していきたいと思っている。</p> <p>全体的な話はわかったが、それでは全体の底上げはできないと思う。</p> <p>あまりいい言葉ではないが、学校差が出てしまうので、これは教育委員会が頑張るのが大前提だが、地域も含めて学校が頑張らないと底上げはできない。</p>

また個人差もある。そのあたりを学校がいかに検討するかが大事である。それをバックアップするのが教育委員会で、上から見るのではなくもっと中へ入り、教師がしっかり把握、指導すれば、間違いなく上がると思う。

もう一つ、この学力テストで、小学校と比べ、進学目前の中学校がマイナスになっていることをとても危惧している。ただし、これはこの数字だけのことを言っている。

今の6年生の子どもが、何年か後に中学生になったときの結果がこれだったら間違いなく心配であるが、これは対象児童生徒が別々なので何とも言えない。もし過去のデータで関係が合致するものがあれば比べてみてはどうか。

自治協委員

家庭学習は時間だけでなく、質が問題であるため簡単には語れない。

今、学力の話が出た。私はこの教育ミーティングに昨年と今年参加したが、つまり昨年を踏まえて、今年はどう変わったかということを見たいと思っている。教育委員会も同じだろうと思うが、せつかく教育委員の方が来ているのだから、いろいろとご意見も伺いたい。

先ほど、秋葉区の小学校6年生が中学校3年生になると非常に下がると言った。これは昨年も同じで、つまり年回りで片づけられないということだ。これは秋葉区だけではないのかもしれないが、なぜ、中学校になるとこんなに下がるのか。

昨年話したことが、教育委員会の中でどのように活かされ、あるいは事務方の現場の指導に活かされているのか、昨年のミーティングを踏まえて伺いたい。

教育委員

中学校は部活動などで家庭学習が少なくなっていることが課題。福井県や秋田県では伝統的に家庭学習に力を入れており、そのことも参考にしなければいけないと教育委員会の中で話があった。

また、この学力テストは新潟市立の児童生徒のデータであり、私立学校に通う子どものデータは反映されていない。それがどれだけ影響しているのか。

もちろん全体的には、小学校は割と成績が良く、中学校で下がることは課題だと捉えて、何かいろいろしていかなければと思っている。

教育委員会も対策を講じてやり出しているが、昨年と今年を比べてただ一喜一憂するのではなく、年度ごとの生徒の差もあるのかもしれないので、長いスパンの中で全体の課題を見る必要があると思う。

今回のミーティングは家庭学習が話題となっているが、先ほど学童(保育)などの話もあったが、学校や家庭以外の場所の活用とか、皆さんの視点やお力をいただきながら、秋葉区の子どもたちの勉強する体制を作り上げられるような、そんな意見交換をされたらいいのではないかと思います。

自治協委員

家庭学習の時間が少ないということだが、秋葉区がこれから区をつくるうえで、家庭学習の時間が増えることは、区が目指す方向に向かっていることと合致するのかが重要と思っている。

秋田県などは、学力は良いが逆に人口が流出している。勉強することで、地域が本当に良くなっているのかということが問題であると思う。

要は、「自主性」と「主体性」の違いだと思う。自主性は決まったことを自分からやる。主体性というのは、自分で考えて物事をして、責任もとっていくということ。今、

AI(人工知能)の問題があって、これからの仕事を考えると、これからの人間は、自主性より主体性の方が大切ということ。データを見ると、家庭学習は宿題中心の「やらされている」勉強スタイル。このスタイルがこれからのAI社会に相応しいのか。

要は、地域の活動に参加していることと家庭学習の時間が延びることは相反することだと思うので、どちらの方向で秋葉区が、この地域で人を育て、定着させるのかということから、実は、秋葉区の教育というテーマになると、ただ、学習時間が延びるとか、少ないという話ではなくなると思う。どういふことで秋葉区というところで教育をしていかなければいけないかというところをまず議論しないと。

今までと時代が違うので、視点を変えて教育というものを捉え直さないと、やっていること自体がはしごのかけ違いになっているという気がしてならない。

本当にやる気になれば、子どもは勉強するし、要はそれをいかに促せるか、地域の大人がそういう姿を見せるのが一番だと思うが、そういう議論がこういうところでなされないと、本当に枝葉の話だけなのではないかという気がしてならない。

創造性というのは、自主性ではなくて主体性であり、そういったことをもっと伸ばせるようにこれからの生活、暮らしというものと教育をつなげた形で議論するべきではないのかと思う。

そのため、こうやって多彩な自治協議会のメンバーが集まって話し合いがされているのではないかと思う。

教育委員

私も同じような意見である。小学校と中学校の数字を見て、ハラハラ・ドキドキはあると思うが、決してそれですべてが決まるわけではない。

秋葉区の地域社会でのボランティア活動の経験が、高校、大学でいかに生かされているのかということがとても大事であると思っている。成績は良いに越したことはないが、こういったいいところをしっかり伸ばすということも、考えていかなければいけないと思う。

どこの大学、高校へ行ったかということも大事かもしれないが、問題はその後。社会に出たときに、どのように生きる力をもてるのかということで、そういう視点は大事だと思う。

自治協委員

アクティブ・ラーニングというのは、自分で勉強するというのではなくて、社会の問題に対してアプローチをして解決する能力を高める教育だと思っている。それが問題の解き方を強制的にさせられる感じになっては困る。

実際の直接体験からしか育たない部分もあると思うので、そういった時間をもっととってもらうことは、家に帰ってからの時間が宿題に追われるようであってはまずいと思う。そのあたりのバランスをとることを視点に置きながら、家庭学習というものを考えてほしい。

自治協委員

ただ今の意見に関連するが、学力や平均値が上がることは否定しないが、未だに学力至上主義の傾向があることに問題があると思う。基本的には学校で勉強をしっかりやれば、それで十分。あまりにも学力だけを意識すると、逆に変な教育に行くような懸念がある。

先ほど底上げという話があったが、学力には体力同様、個人差、能力差があるの

は当然であるから、学力も運動能力にしても、下にいる子どもたちをどう育てるかということが非常に大きな主眼にならなければいけないと思う。それを忘れてしまうと、上の子どもだけ伸ばしてしまうことに陥ってしまう片務的な教育になってしまう。

むしろ、これからの教育は、下の子どもたちをいかに育てるかに主眼を置けば、自然と底上げになっていくと思う。やっていないとは言わないが、どこに視点を置いて教育をやっていくかということを考えてほしい。

教育委員会  
事務局

ただ今の意見に対して、中学校ではアフタースクール学習支援事業により放課後学習を行っている。数学と英語について、子どもの希望に応じた、子どもの興味・関心に合わせた授業を昨年からは始めている。

まだ不十分な部分もあるが、そういったことで補充ができればと考えている。

自治協委員

ぜひお願いしたい。学力も運動能力と同様、できないでいる子どもに対してしっかりサポートすれば必ず差は縮まり、追いついて、あるレベルまで行けると思うので、そういうことを大事にしてもらいたいと思う。

自治協委員

ただ今の話を聞いていると、家庭学習の時間が少ないとか、成果が上がらないということだが、非常にできる子どもは学習時間が少なくてもよく、そういう子どもは別にして、大半の子どもは、ベースづくりがきちんとしている生徒は2時間でも勉強できる。ベースにある部分を徹底的に、どのように家庭学習するのかという具体的な方策を示してやれるかどうか、そこが鍵になるのではないかと思う。

子どもたちを見ていると、何をしたいかわからない子どもが非常に多い。スポーツであればベースとなる部分、素振り100回とか、徹底的に繰り返す。勉強も同じで、基本的なところの繰り返し、トレーニングが重要だと思っているが、そのトレーニングの部分が見過ごされているような気がする。

先生方がもっとトレーニングの部分に目を向けて、家庭学習も含め授業を組み立てていけば、子どもは結構食いついてきて、一生懸命、自分でもやる気が起きると思う。

自治協委員

社会も生き物も環境も全部多様性が大事だと思う。今、子どもたちの多様性を認めるような方向に進んでいると思う。

今回は学習がテーマとなっていたが、一つ感じるのは、先生の多様性が昔と比べると失われているような感じがする。個性的な先生や型破りな先生を認めるような寛容さが、今はもうなくなっているような気がする。ぜひ、採用についても、同じような気がするので、例えば、スポーツで名をはせた方を教育現場で活かすような施策をやってもらいたいと思う。

議 事

6 閉会あいさつ(秋葉区自治協議会第3部会長)

お忙しい中、たくさんの方が集まり、時間が足りないくらいいろいろなご意見をいただいた。

時代背景や社会動向が意外と早く、一生懸命何かをやろうとしても、何かまたすぐが変わり、1、2年頑張っても同じことを続けようと思っても、もうそれに合わない社会背景になってしまう、そのような気がしている。また、先ほどあったアクティブ・ラーニングというような新しい言葉も出てきている。

子どもたちの多様性という話もあったが、好奇心とか可能性をたくさんもって生まれてきて、小さいときにいろいろなトレーニングを受けて変化していく中で、秋葉区独特の変化をしていい子どもに育っているなど感じるアンケートや、反面、勉強時間が足りないのではというところもあったが、それぞれをうまく評価してもらえるプログラムを組んでいただき、教育委員会からもサポートいただきながら、地域全体で盛り上がっていくといいのかなと感じている。

自治協議会の部会としても、秋葉区の子どもたちの学習や育成のため、また地域の発展のために、力を合わせていければと思っている。

本日は、ありがとうございました。

7 閉会